

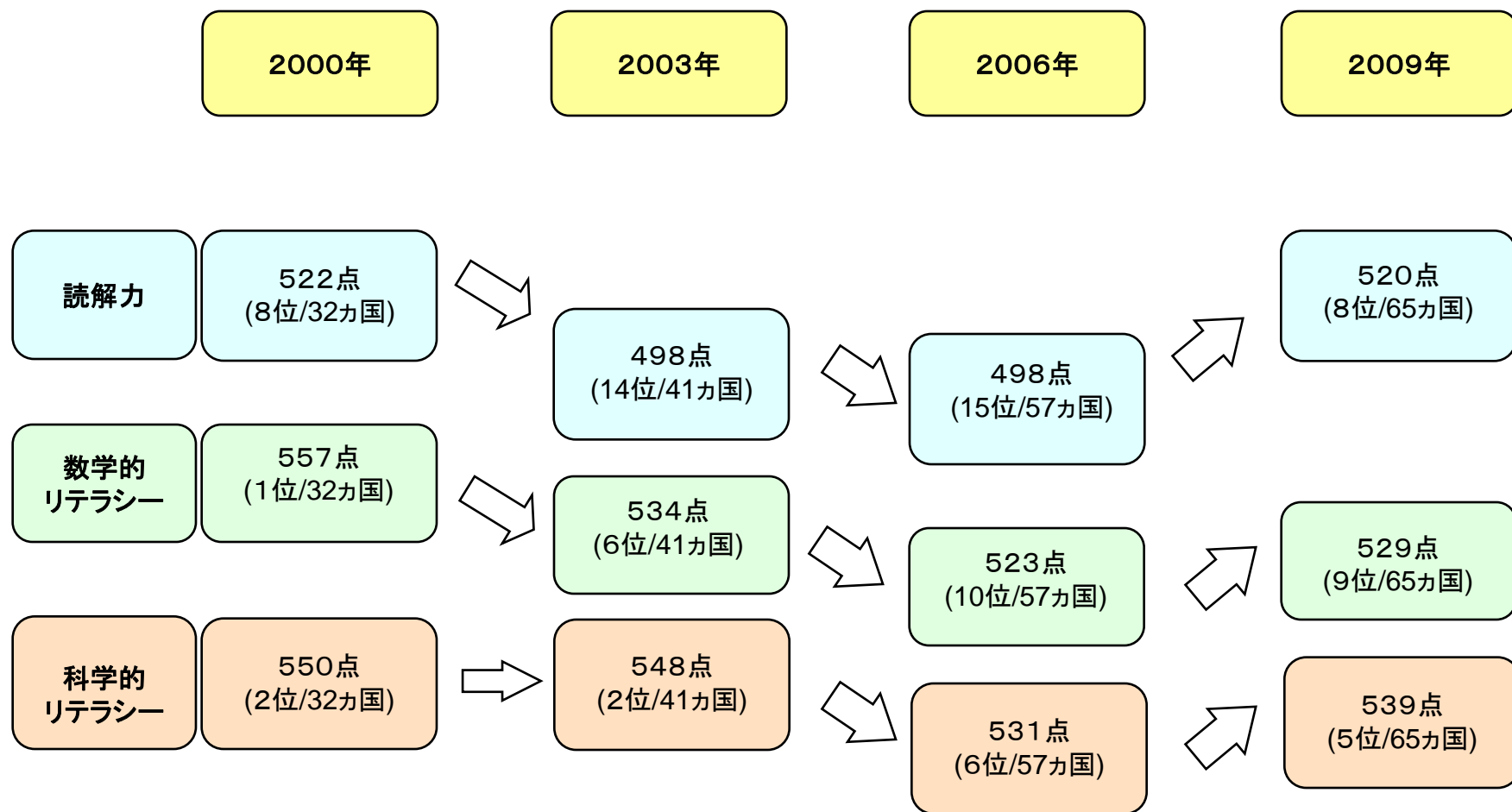
**「芯の通った学校組織」
による「学力」の向上**

I . 2000年以降の全国的な教育改革の状況

◆ 学力低下論争

「ゆとり」教育批判、分数のできない大学生 etc.

◆ PISAショック(2003年・2006年)



○日本の教育は世界一だと思っていたのに・・・

○このままでは、グローバルな競争の中で日本は沈没するのではないか・・・

○自分の子どもは、学校でちゃんと力を付けているのだろうか・・・



学力向上の必要性が大テーマに！

→ 全国学力・学習状況調査の導入(2007年)

→ 新学習指導要領(2009年) → 授業時数の増加

→ 週6日制??

「学力」とは

○学校教育法の改正（2007年）

①基礎的な知識・技能

②課題解決のための思考力、判断力、表現力等

③学習意欲

「学力」の定義は大きく変わっている

× 知識の暗記

○ 幅広い知識を持ち、それを活用して
課題解決を行う力
(思考力・判断力・表現力)

※背景: 変化が激しい社会、デジタル革命、産業構造の変化

「学力」の定義は大きく変わっている

＜新学習指導要領に係る答申＞

教育については、「ゆとり」か「詰め込み」かといった二項対立で議論がなされやすい。しかし、変化の激しい時代を担う子どもたちには、この二項対立を乗り越え、あえて、基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用する思考力・判断力・表現力等をいわば車の両輪として相互に関連させながら伸ばしていくことが求められている。

全国学力・学習状況調査

A問題 : 「知識」を問う調査

B問題 : 「活用力」を問う調査

→ B問題の具体例

「学力」向上

学校では、これからの社会を生きる子どもの社会的自立のため、小学校段階から、

- 基礎・基本の徹底
- 活用力の育成

の双方に取り組む必要がある。

「活用力」を高める授業

基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、観察・実験やレポートの作成、論述といった学習活動の充実

(例)

- ・文章や資料を読んだ上で、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、A4・1枚(1000字程度)といった所与の条件の中で表現する
- ・自然事象や社会的事象に関する様々な情報や意見をグラフや図表などから読み取ったり、これらを用いて分かりやすく表現したりする

学校マネジメントの推進

- ・「活用力」の育成をはじめ、いじめ問題や、特別支援など、学校の課題が多様化
- ・地域・家庭の教育力の低下などにより、学校の業務や学校への期待が増大



教職員一人ひとりでの対応に限界



学校の組織力を高める学校マネジメントが必要

学校マネジメントの推進(国の動向)

○学校教育法の改正(平成19年)(教育3法)

・学校評価の法律への規定

(学校は、学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づき学校運営の改善を図るために必要な措置を講ずること)

○全国学力・学習状況調査の実施(平成19年)

・児童生徒の学力・学習状況の把握・分析、施策の検証の取組を通じて、継続的な検証改善サイクルを確立することが目的



目標の明確化とPDCAサイクルの確立

○学校教育法の改正(平成19年)(教育3法)

・校長、教頭の他に、副校長や主幹教諭など新たな職を新設



組織マネジメントのための体制整備

(※教育3法: 第一次安倍政権の下で行われた、平成19年の学校教育法、教育職員免許法、地方教育行政法の改正のこと)

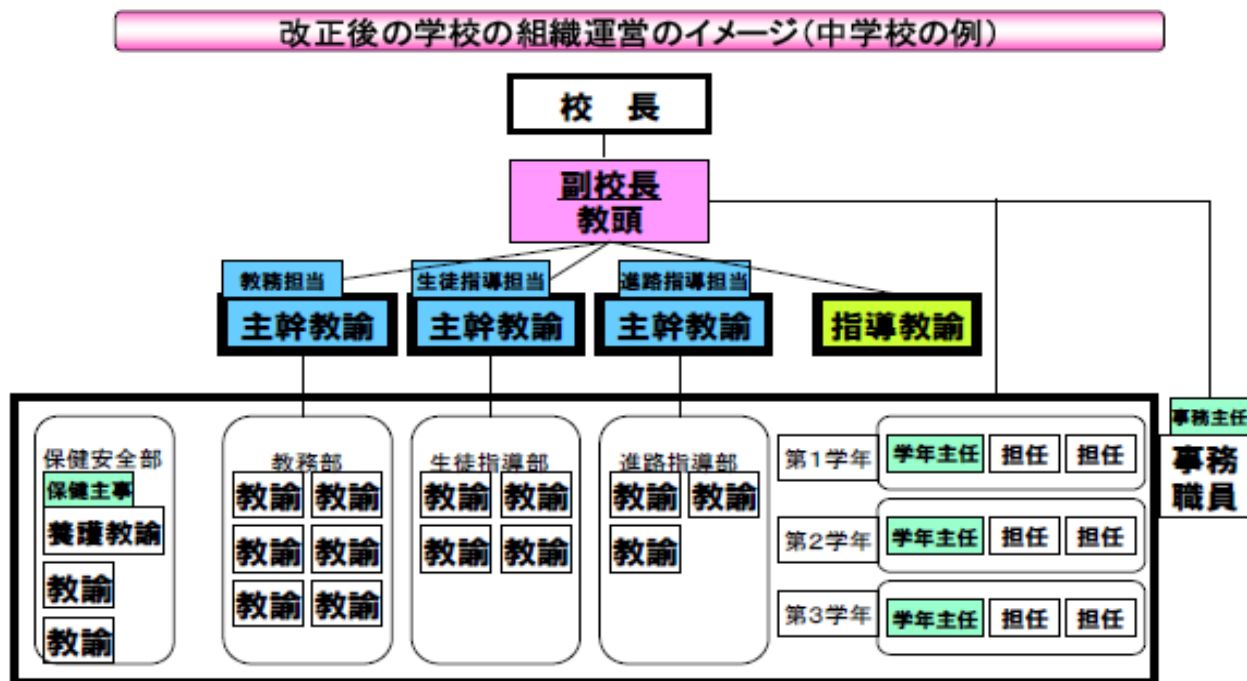
組織マネジメントのための体制整備

- 1976年：主任の制度化

教職員間の連絡調整及び関係教職員に対する指導、助言等

- 2007年：主幹教諭の制度化

担当する校務について、一般の教諭の上司として権限と責任をもってとりまとめる(大分県：主幹教諭10名(平成24年度))



まとめ

[2000年以降の我が国の教育改革のポイント]

- ◆ 「学力」向上
- ◆ 学校マネジメントの推進

※自民党(～2009)、民主党(2009～2012)、自民党(2012～)
の政権交代の中でも紆余曲折はありながらも重点課題として継続

「芯の通った学校組織」 による「学力」の向上

Ⅱ．大分県の小・中学校の状況

[大分県の小・中学校の状況のポイント]

○徐々に、学力向上の成果が見られるが、

まだまだ九州トップレベルには遠い。

○学校の組織力の発揮に係る課題が大きい。

大分県の小・中学生の学力の全国順位(2009, 2010)

		2009	2010
小学校	国語A	29	41
	国語B	42	41
	算数A	25	33
	算数B	44	33
	理科		
	総合	40	41
中学校	国語A	33	38
	国語B	36	40
	数学A	39	43
	数学B	43	42
	理科		
	総合	40	42

「学力」向上の取組

- 学力先進県（秋田県）視察

- 「一時間完結型授業」
「ノートと板書の一体化」

- 学力向上支援教員（現在72名）

- 指導力の高い教員から学ぶ文化の推進
（点から面へ）

大分県の小・中学生の学力の状況(2012)

		2009	2010			2012
小学校	国語A	29	41			34
	国語B	42	41			38
	算数A	25	33			9
	算数B	44	33			32
	理科					36
	総合	40	41	⇒		34
中学校	国語A	33	38			38
	国語B	36	40			26
	数学A	39	43			30
	数学B	43	42			36
	理科					21
	総合	40	42	⇒		31

出典: 全国学力・学習状況調査を大分県で独自集計
 ※平成22,24年度の全国順位は各都道府県の平均正答率の中間値

「九州トップレベル」？

ただし、目標としている学力「九州トップレベル」には、まだまだ遠く、全国平均にも達していない。

※2012年調査

・小学校：熊本県14位

(鹿児島県16位、宮崎県26位、佐賀県30位、福岡県32位、大分県34位、長崎県38位、沖縄県46位)

・中学校：宮崎県11位

(熊本県20位、長崎県21位、大分県31位、佐賀県42位、鹿児島県43位、福岡県44位、沖縄県47位)

大分県の子どもたちの「学力」の課題

- ・小学校算数A(知識)が向上！(全国9位)

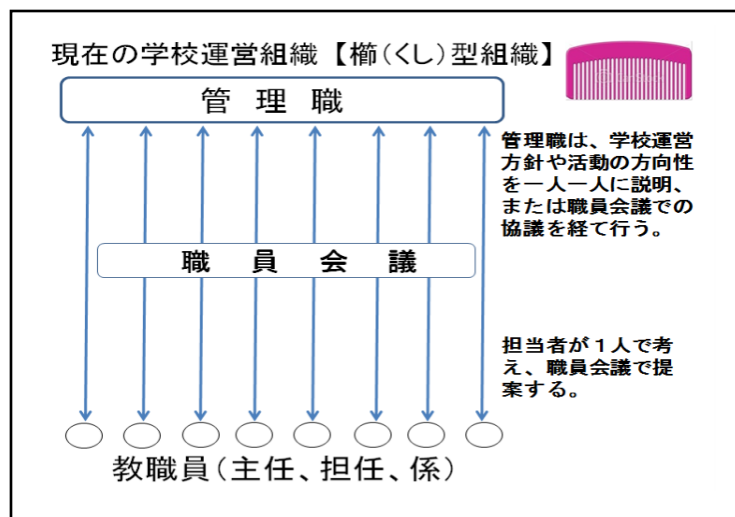
ただし、

- ・小・中学校とも、国語A(知識)が全国以下
→漢字や語句など基礎・基本の定着が必要
- ・国語、数学ともにB問題(活用)が弱い
→必要な情報を把握して、適切な言葉で記述する「学力」が必要

<大分県の学校組織の状況(特に、小中学校)>

地域や学校間で差はあるものの、

- ・ 学校の教育目標が抽象的なため、各教職員の目標も抽象的。
- ・ ミドル・リーダーたる主任が十分機能していない(くし型組織)。
- ・ 職員会議を経ないと校長の提案でも意思決定できないことがある。

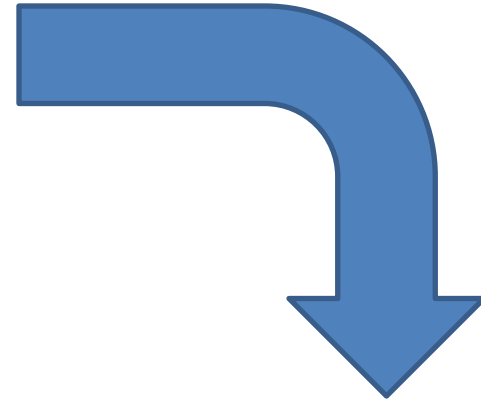


学校が十分組織力を発揮できていない
(個々の教職員に頼った学校運営)

「組織力」による学力向上！



[学校全体での取組]



[力を伸ばす]

「芯の通った学校組織」 による「学力」の向上

Ⅲ. 「芯の通った学校組織」による「学力」の向上

「芯の通った学校組織」

「芯の通った学校組織」

- より良い教育を目指し、目標や取組をしっかりと決めて組織で取り組んでいる学校
- 校長のリーダーシップのもと、主任等の教員がミドルリーダーの役割をしっかりと果たしている学校

「芯の通った学校組織」による「学力」の向上

<例>

(ある中学校)

- ・国語の教員：どうも、この学校の子どもは記述式の問題が解けないなあ・・・。
- ・数学の教員：計算はできるのに文章題がなあ・・・。



(教員個々人任せの学校の場合)

個々の教員は、悩みながらも、

- ・個々の力量は様々なのに、他の教員から学ぶことなく自分のやり方で指導をしてしまったり、
- ・日々の授業や校務に埋没して、そのままにしてしまったりする。



「芯の通った学校組織」による「学力」の向上

(組織力のある学校の場合)

＜①課題と目標の明確化＞

校長の下、主任の教員を中心に、子どもの状況を分析し、教員の考えを集約して、課題と目標を明確化。

→ 日々の授業での様子や全国学力調査の結果などを考えると、この学校の子どもは、文章の内容を捉える力が弱い

→ 読解力を高めることに重点を置こう！
(課題の明確化)

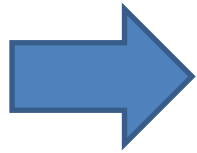
→ 来年の全国調査時には、読解力が低い子どもの割合を今年の15%から5%以内にしよう！ (目標の明確化)



「芯の通った学校組織」による「学力」の向上

＜②学校全体での取組の設定（年度当初）＞

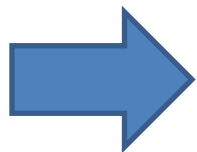
- ・ 国語の教員だけでなく、全ての教科の教員が、1月に1回は学校図書館で本や資料を使った授業をしよう。
- ・ B先生の学校図書館を使った授業は、子どもが生き生きとしている。空き時間や放課後を使って、全員、1学期に1回はBさんの授業を見て、自分の授業の参考にしよう。



③実践

＜④検証（毎学期末）＞

一学期を反省して、来学期の取組を考えよう。



⑤実践



「芯の通った学校組織」による「学力」の向上



- 授業の中で、本や資料を読んで、考えをまとめたり記述したりすることが大幅に増加。
- 学校図書館を活用する授業を行う教員の指導力が向上し、「分かる授業」、「力が付く授業」が実現。



よく分からなかった文章が分かるように！
(達成感)

読解力の向上！



「芯の通った学校組織」による「学力」の向上

このような組織的な取組が行われるためには、

- ・ 「課題と目標の明確化・取組の設定と実践(P)」
→ 「実践(D)」 → 「検証(C)」 → 「実践(A)」 の流れ
- ・ それらを進める体制(校長のリーダーシップのもと、
教務主任を中心に、学年主任が各学年の教員の意見
をとりまとめる、など)

が、学校に根付いている必要がある。



「芯の通った学校組織」の必要性

「芯の通った学校組織」

「芯の通った学校組織」

- より良い教育を目指し、目標や取組をしっかりと決めて組織で取り組んでいる学校

＞①目標達成に向けた組織的取組

- 校長のリーダーシップのもと、主任等の教員がミドルリーダーの役割をしっかりと果たしている学校

＞②基盤となる学校運営体制

学校に求めていること

<①目標達成に向けた組織的な取組>

[目標の具体化・数値化]

- × (教育目標)たくましく生きる子どもを育成する。
(教育目標)たくましく生きる子どもを育成する。
- (重点目標)このため、基礎・基本の定着を図る。
(達成指標)その指標の一つとして、基礎・基本定着状況調査で、最低の「1」の段階の児童の割合を年度内に15%から5%以内にする。

[取組の具体化]

- × (取組内容)
互見授業により教員の資質向上を図る。
- (取組内容＋取組指標)
全教職員が、学期に3回以上互見授業を行い指導力を高める。

学校に求めていること

<4点セットの他の例>

(重点目標) 挨拶ができる子どもを育成する

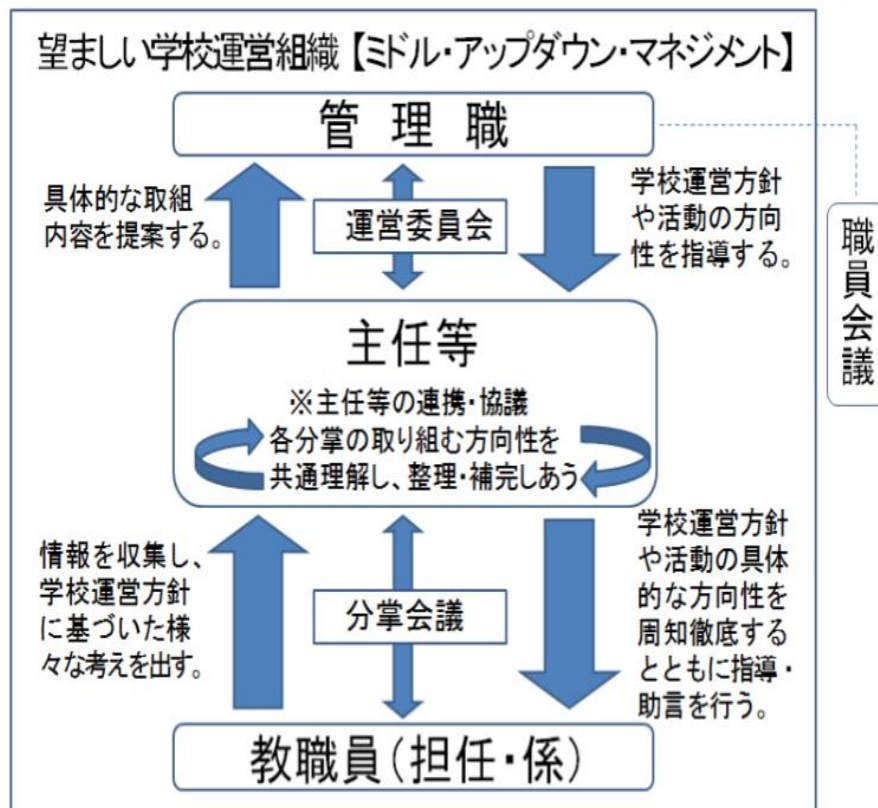
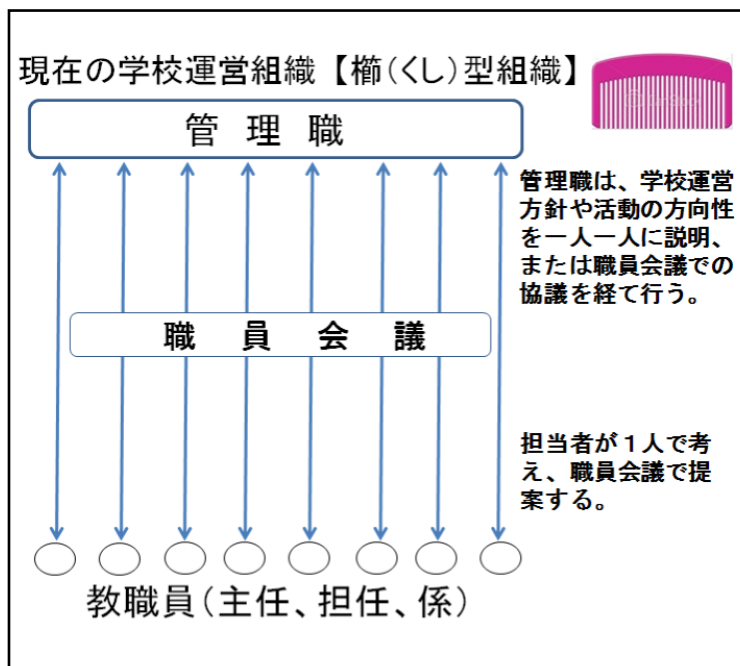
(達成指標) 年度末に、「子どもがよく挨拶をするようになった」と回答した保護者の割合を80%以上にする

(取組内容) ・挨拶運動をする
・よく挨拶をしている子どもをほめる

(取組指標) ・毎朝5人以上の先生が、校門の前で挨拶運動をする。
・毎週HRの時間に、全ての学級で、よく挨拶をしている子どもをほめる。

学校に求めていること

<②基盤となる学校運営体制>



学校改革:「目標達成に向けて組織的に取り組む『芯の通った学校組織』」の構築

「目標達成に向けた組織的取組」

具体的で検証可能な重点目標、重点取組、指標を設定し、それらに基づくPDCAにより、学校改善を継続的・持続的に進める学校組織

校長等管理職の下、教務主任を中心に、カリキュラムマネジメントによる検証・改善を行い、学校全体で学力向上の取組を行う学校組織

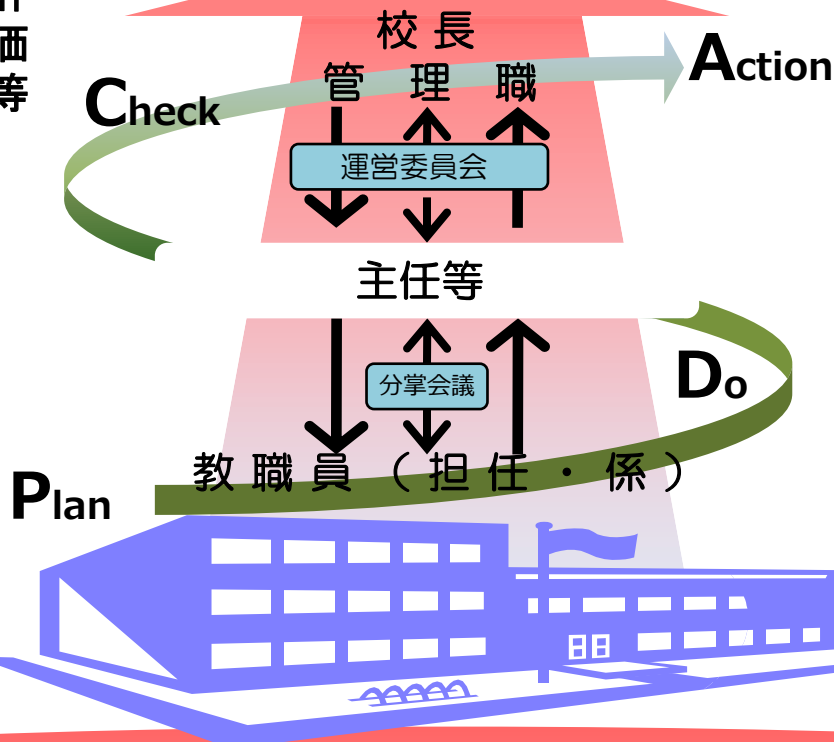
教育目標・学校評価等

学力向上

学力・体力向上、豊かな心

【持続的・発展的な取組】

具体的な目標



体力向上

校長等管理職の下、体育主任を中心に、児童生徒の体力分析や、「一校一実践」の取組など、学校全体による体力向上に取り組む学校組織

いじめ対応

校長等管理職の下、生徒指導主事等を中心に、情報共有やいじめ対応のための組織が機能し、学校全体で統一的な対応を行う学校組織

「目標達成に向けた組織的取組」

【基盤となる学校運営体制】

校長のリーダーシップの下、それぞれの分野の責任者としてミドルリーダーたる主任等が効果的に機能し、運営委員会での協議等を通じて機動的で改善志向の意思決定を行う学校組織

「芯の通った学校組織」

前例踏襲に陥りがちな学校組織



目標達成に向けた組織的な取組を行う学校組織

教職員個々人のやり方での授業



児童生徒の状況分析の上に、学校全体で
授業の改善や指導力向上に取り組む学校組織

「芯の通った学校組織」の構築

＜3つのフェーズ（平成24・25・26年度）により推進＞

H24：趣旨の周知と制度の整備

H25：実践・研修・指導による「芯の通った学校組織」の構築

H26：「芯の通った学校組織」の定着

個々の教職員の高い指導力と対応力

+

学校の組織力



子どもたちに達成感を持たせながら、
その力をどんどん伸ばす！



お願い

<県民総ぐるみ>

- 学校の目標や取組内容を、先生に聞いて、知って頂きたい。
- そして、学校と一緒にになって、子どもの力を伸ばして頂きたい。

ご静聴

ありがとうございました！